

決算説明会

2015年3月期第1四半期

2014年7月31日
ミネベア株式会社

1Qの売上高、営業利益は過去最高を更新

(百万円)	2014年3月期		2015年3月期	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q	伸び率	伸び率
売上高	85,317	93,608	99,531	+16.7%	+6.3%
営業利益	3,538	8,883	10,524	3.0倍	+18.5%
経常利益	3,068	7,943	10,473	3.4倍	+31.9%
四半期純利益	2,852	4,998	6,831	2.4倍	+36.7%
一株当たり 四半期純利益(円)	7.65	13.38	18.29	2.4倍	+36.7%

為替レート	14/3期1Q	14/3期4Q	15/3期1Q
US\$	97.72円	103.40円	102.40円
ユーロ	126.96円	141.41円	140.57円
タイバツ	3.30円	3.15円	3.15円
人民元	15.84円	16.96円	16.40円

2014年7月31日

1

2015年3月期第1四半期の連結業績は、売上高は前年同期比で16.7%増、前四半期比で6.3%増の995億3,100万円、営業利益は前年同期比で3.0倍、前四半期比で18.5%増の105億2,400万円、純利益は前年同期比で2.4倍、前四半期比で36.7%増の68億3,100万円となりました。当社は2002年3月期から四半期決算を開示していますが、当第1四半期は売上高、営業利益、経常利益で四半期としての過去最高を更新しました。

この主要因は、ボールベアリング、各種モーターの世界経済の伸びによる幅広い用途での需要増加であり、また、LEDバックライトではハイエンド・スマートフォン市場の成長と当社のシェア上昇で、売上高、利益ともに伸びています。

為替の影響は、売上高で前年同期比プラス40億円、前四半期比マイナス8億円あったと推計しています。営業利益への影響は前年同期比プラス34億円、前四半期比マイナス2億円との推計です。

(億円)
1,200

1Q売上高は過去最高を更新

前年同期比 +16.7%
前四半期比 +6.3%



2014年7月31日

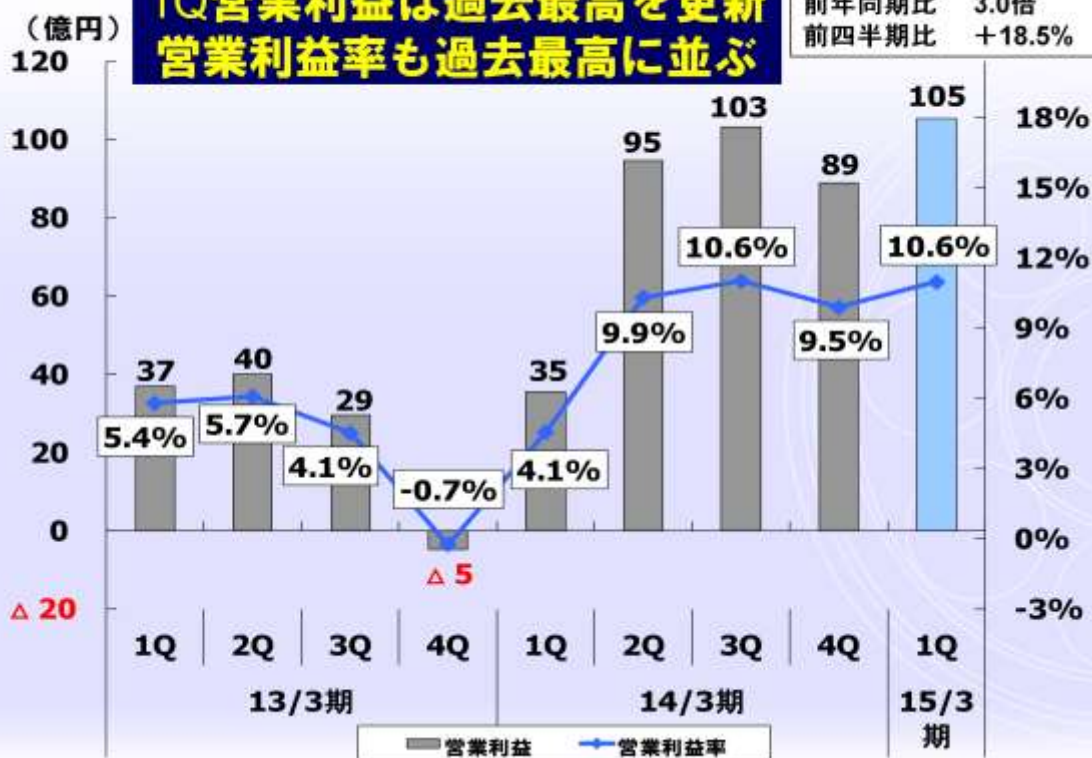
2

第1四半期の売上高は、各種製品の販売数量拡大から、前四半期比6.3%増の995億円となり、2014年3月期第3四半期を抜いて、四半期としては過去最高を更新しました。また、前年同期比の増収は9四半期連続です。

需要の増加傾向は今後もしばらく続き、ボールベアリング、LEDバックライトなどの伸びを中心に増収が続くと見込んでいます。

**1Q営業利益は過去最高を更新
営業利益率も過去最高に並ぶ**

前年同期比 3.0倍
前四半期比 +18.5%

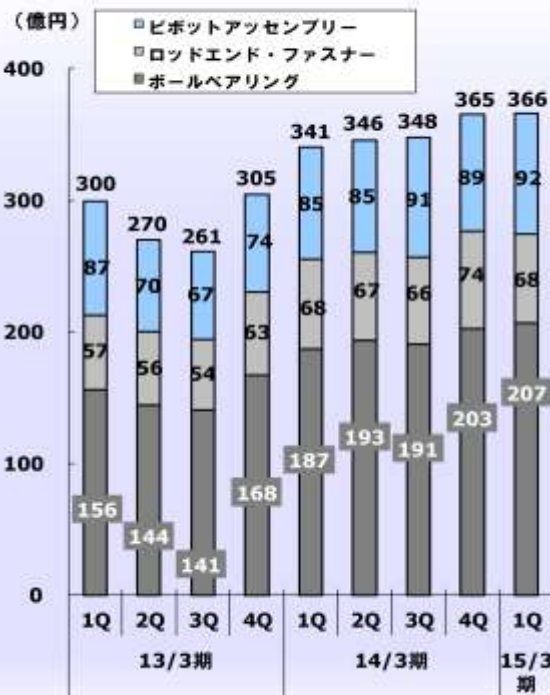


2014年7月31日

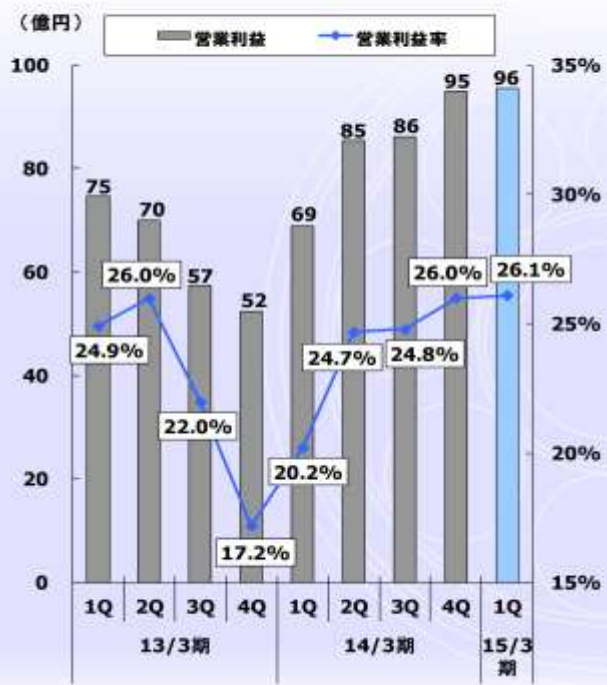
3

第1四半期の営業利益は前四半期から16億円増加し105億円と、2014年3月期第3四半期を抜いて四半期としては過去最高となりました。営業利益率は1.1ポイント改善し10.6%となり、過去最高に並びました。また、前年同期比での営業増益は4四半期連続です。営業利益は月を追うごとに増加しています。

売上高



営業利益



2014年7月31日

4

機械加工品事業セグメントの第1四半期の売上高は、前四半期比0.2%増の366億円、営業利益は前四半期比0.6%増の96億円となりました。営業利益率は、前四半期から0.1ポイント上昇し26.1%となりました。ボールベアリング、ピボットは売上高、営業利益とも伸びていますが、ロッドエンド・ファスナーの停滞で、伸び悩みました。

一方、前年同期比ではボールベアリングの力強い需要増加が続いていることを中心に、売上高で7.4%増、営業利益では38.7%増となりました。

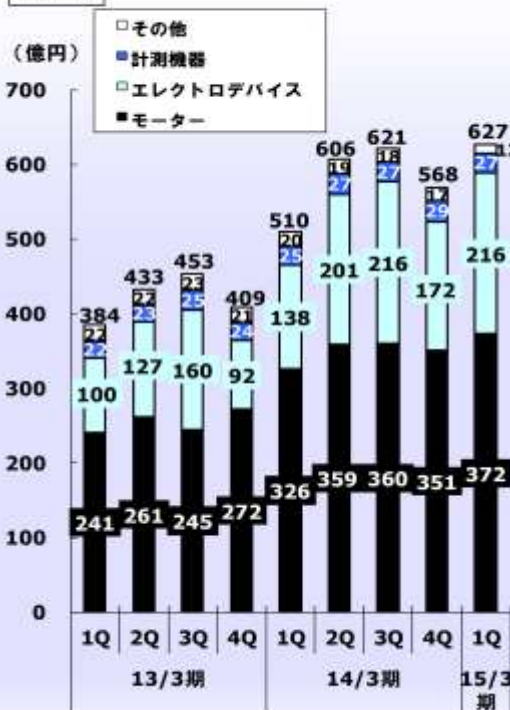
ボールベアリングの売上高は、前四半期比2.0%増の207億円となりました。力強い需要の伸びが続いており、月次の外部販売数量は5月と6月にそれぞれ過去最高を更新しました。地域別には中国で、用途別にはほとんどの用途先で伸びていますが、中でもサーバー用ファン、自動車、OA機器、ATM向けが好調でした。7～9月も外販を中心に好調な出荷が続く見込みです。

ロッドエンド・ファスナーは、米国の政府防衛予算削減圧力を受けた米国子会社の不振が響き、売上、利益ともに若干減少しました。一方、世界の民間航空機需要は堅調に推移しているため、今後は世界4拠点でのシナジー追及強化を通じて拡販体制の整備とコスト削減を進め、収益改善に取り組んでいきます。

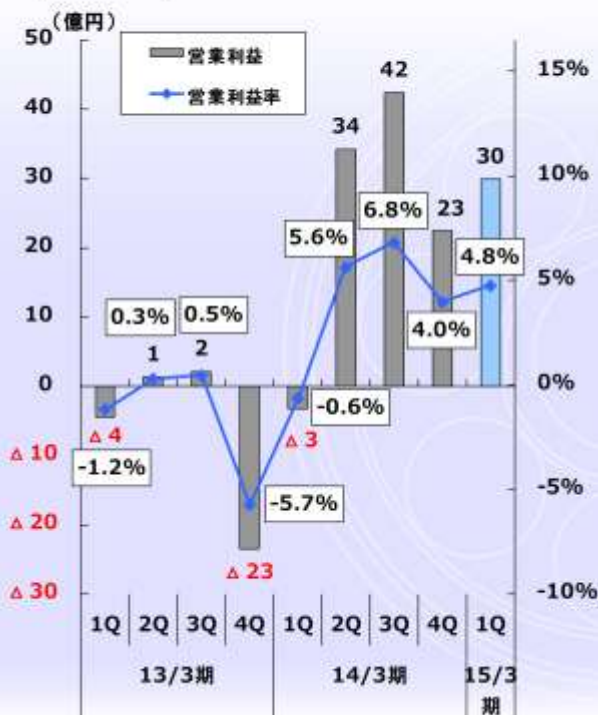
ピボットアッセンブリーの売上高は前四半期比3.4%増の92億円となりました。

HDD市場は、足元は想定以上に堅調で、当社は高い市場シェアを生かして安定的な利益を上げることが出来ました。

売上高



営業利益



2014年7月31日

5

電子機器セグメントの第1四半期売上高は前四半期比10.3%増の627億円、営業利益は前四半期比32.5%増加し30億円となりました。営業利益率は0.8ポイント上昇し4.8%となりました。

モーターの売上高は、世界経済の回復を受けてほとんどのモーターについて売上が増加したため、前四半期比6.0%増の372億円となりました。利益面では、増収効果に加えて、昨年度行なった構造改革効果によって更に改善し、また、モアテックの赤字も縮小したため、モーター全体の営業利益は増加しました。

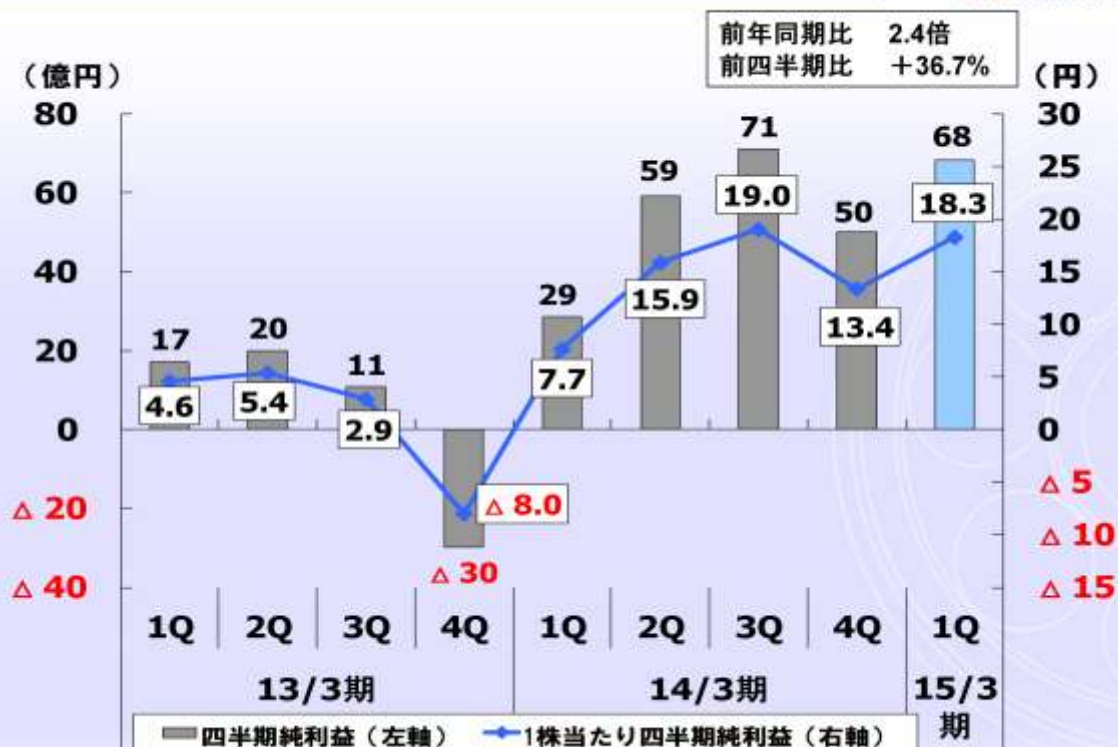
エレクトロデバイスの売上高は、売上の8割を占めるLEDバックライトが高級薄型スマートフォン向けに増加し、前四半期比25.6%増の216億円となりました。LEDバックライトは、販売先が拡大していることから4月、5月に計画を上回って売上が推移しました。一方、6月には大手顧客の新モデル向け生産の急激な立上げのための設備増設や人員増加による大幅な固定費増加が見られましたが、前四半期比で増収となり、利益も増加しました。第2四半期には、中国とカンボジア、そしてタイで取り組んでいる生産能力の拡大が本格的に寄与し、出荷額は大手顧客向けを中心に、第1四半期を飛躍的に上回り、利益も大きく増加する見込みです。

計測機器の売上高は前四半期比6.9%減の27億円となり、利益はほぼ横ばいとなりました。

純利益

四半期推移

Minebea
Passion to Exceed Precision



2014年7月31日

6

第1四半期の純利益は、営業利益の増加を受けて、前四半期比18億円改善し68億円となりました。主な特損としては、米国のモーター子会社の株式売却に伴う為替換算調整勘定の実現損が13億円、モアテックの事業構造改革損失が3億円ありました。一株当たり純利益は18.3円となりました。前年同期比での純利益の増加は5四半期連続です。



2014年7月31日

7

販管費は、売上増加にも拘らず前四半期比1億円減少し、138億円となりました。売上高販管費比率も前四半期比で1.0ポイント低下し13.8%となりました。これは、売上高の増加に伴い荷造運賃などは増加しましたが、経費削減努力による固定費減少の影響が大きかったためです。



2014年7月31日

8

第1四半期期末のたな卸資産は、売上増加に伴い、前期末比37億円増加し674億円となりました。



2014年7月31日

9

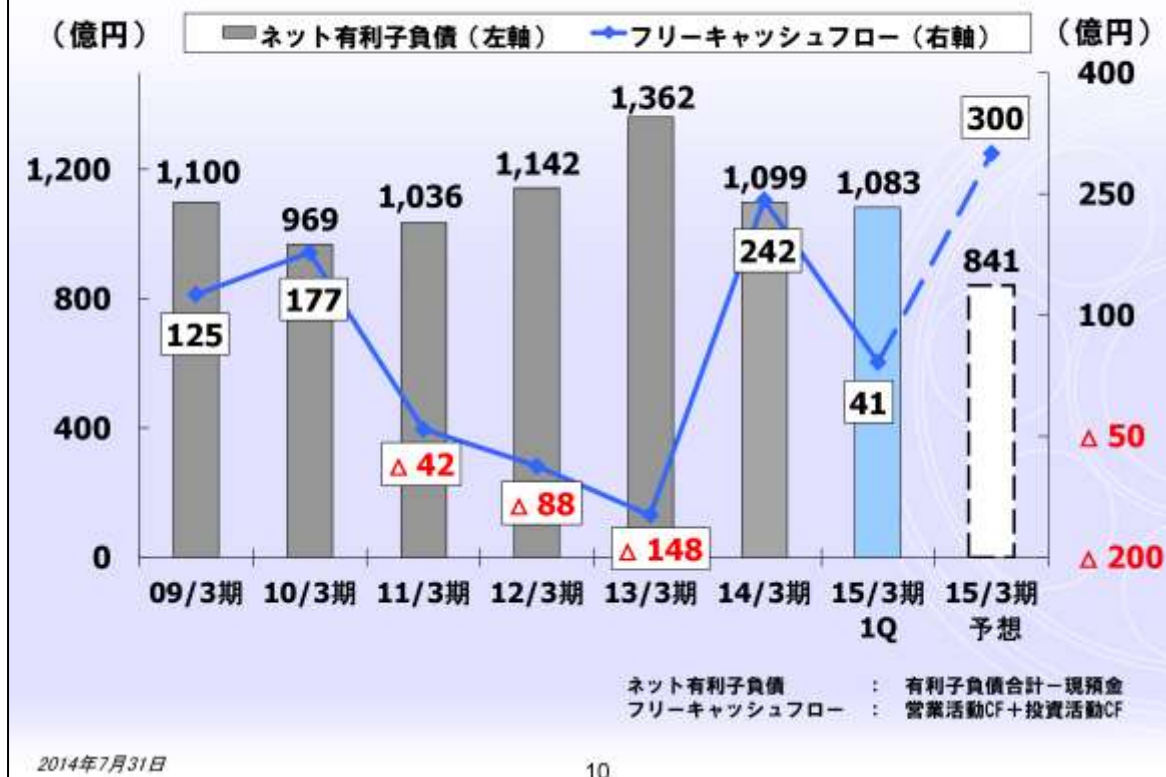
第1四半期の設備投資は66億円、減価償却費は59億円でした。

2013年3月期までの3年間、成長分野の生産能力増強のため、積極的に設備投資をしてまいりましたが、今期は投資を抑制し、財務体質強化に注力してまいります。

ネット有利子負債

年推移

Minebea
Passion to Exceed Precision



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。

第1四半期末におけるネット有利子負債は1,083億円となり、前四半期末比16億円の減少となりました。純利益が増加したものの、一方で期末配当や賞与支払い等資金需要が増加した事が影響したため、減少幅は抑えられました。フリーキャッシュフローは41億円のプラスとなりました。

今期は利益の伸びが見込めるため、フリーキャッシュフローは300億円のプラスへ更に拡大する見込みです。

通期予想を上方修正 売上高、純利益は過去最高水準へ

(百万円)	2014年3月期		2015年3月期				
	通期	上半期従来予想	上半期修正予想	増減額	下半期予想修正なし	通期修正予想	前年比伸び率
売上高	371,543	196,000	204,000	+8,000	204,000	408,000	+9.8%
営業利益	32,199	17,700	21,200	+3,500	18,800	40,000	+24.2%
経常利益	28,065	16,500	20,500	+4,000	17,500	38,000	+35.4%
純利益	20,878	13,200	15,200	+2,000	10,800	26,000	+24.5%
一株当たり純利益(円)	55.94	35.34	40.69	+5.35	28.91	69.60	+24.4%

(下半期は変更なし)

為替レート	2014年3月期	2015年3月期 1Q実績	2015年3月期 2Q想定	2015年3月期 下半期想定 変更なし	2015年3月期 通期想定
	US\$	99.76円	102.40円	101.36円	102.00円
ユーロ	133.38円	140.57円	138.31円	139.00円	139.22円
タイバツ	3.18円	3.15円	3.12円	3.20円	3.17円
人民元	16.28円	16.40円	16.29円	16.80円	16.57円

2014年7月31日

11

これは、今期2015年3月期の業績予想をまとめたものです。

第1四半期は計画に対して好調なスタートを切ることができました。この実績を勘案し、5月に発表した通期予想を上方修正します。なお下半期の予想の変更はありません。

製品別では主力製品のボールベアリング外部販売の増加、LEDバックライトなどの売上拡大、モーターの収益改善などにより、今期は売上高、純利益は過去最高水準に達すると見込んでいます。

(百万円)	2014年3月期		2015年3月期				
	通期	上半期 従来予想	上半期 修正予想	増減額	下半期予想 修正なし	通期 修正予想	前年比 伸び率
売上高	371,543	196,000	204,000	+8,000	204,000	408,000	+9.8%
機械加工品	140,032	71,200	72,800	+1,600	72,800	145,600	+4.0%
電子機器	230,514	124,300	130,700	+6,400	130,700	261,400	+13.4%
その他	996	500	500	+0	500	1,000	+0.4%
営業利益	32,199	17,700	21,200	+3,500	18,800	40,000	+24.2%
機械加工品	33,550	17,500	18,800	+1,300	17,200	36,000	+7.3%
電子機器	9,581	5,200	6,700	+1,500	6,200	12,900	+34.6%
その他	866	300	600	+300	400	1,000	+15.5%
調整額	△11,799	△5,300	△4,900	+400	△5,000	△9,900	△16.1%

2014年7月31日

12

新しいセグメント別の業績予想はこの通りです。

**中間配当と期末配当をそれぞれ1円増配し、
年間10円配当へ**

2015年3月期 配当	
中間配当(予想)	4→5円/株
期末配当(予想)	4→5円/株
年間配当金(予想)合計	8→10円/株

2014年7月31日

13

好調な業績をふまえ、中間配当と期末配当をそれぞれ期初予想の4円から5円に1円ずつ増配し、年間配当金予想の合計を10円といたします。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。